

個性を生かす進路とは

「高校進学」と言っても、現在は様々な進路先があります。進学するにあたり勿論、成績や出席日数は関係してきますが、中学卒業後の進路選びを早くから意識することで、選択肢は広がっていくことでしょう。そのために、どんな事を準備していくのか、どんな事を調べる必要があるのか、さまざまな選択肢を本誌では紹介していきます。

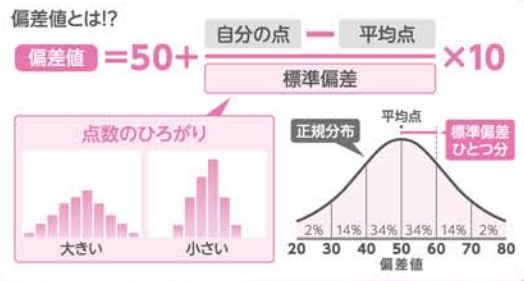


中学校卒業後の進路

現在の日本では、小学校から中学校までは義務教育と定められています。高等学校は、義務教育ではありませんが、実際には全国の中学生の97%を超える生徒が高等学校へ進学しており、ほとんどの子どもたちが全日制もしくは定時制の高等学校へと進学しています。

高等学校の選び方とは

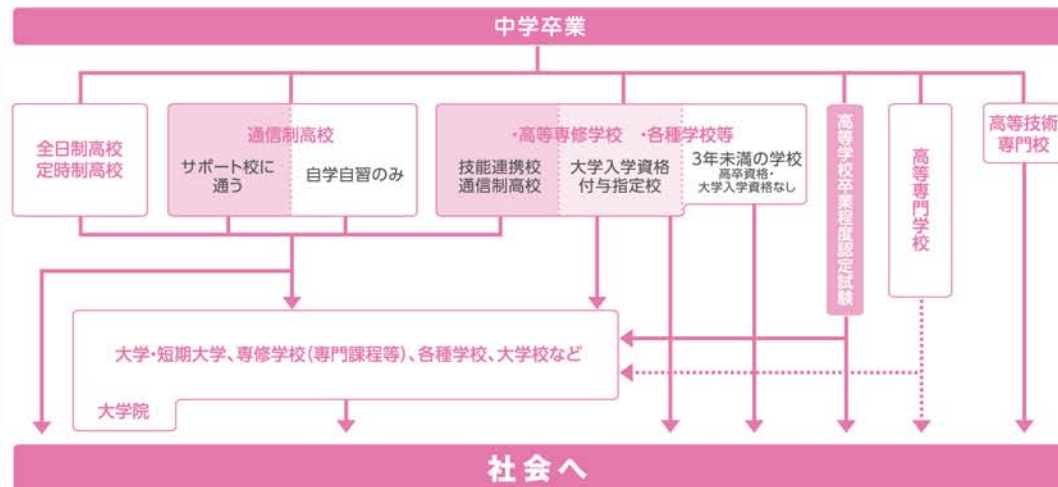
高校を選ぶうえでの判断材料としては、本人の「学力」が基準となり「自分の成績なら、この高校」と決めてしまうケースが多いのが現状です。しかし、全ての中学生にとって「良い高校」とは「成績が良い高校」の事なのでしょう。[偏差値の高い高校に入学する]という目的が明確な生徒にとっては「学力の高い高校」=「良い高校」なのでしょう。ですが良い高校とは本来、一人一人違う基準があるのではないのでしょうか。実際に、実業高校に入学して、一気に成績が上がったという生徒は少なくありません。自分に合った勉強内容や学習方法を実践してくれる学校があれば、グングン力を伸ばす可能性を全ての生徒が持っているはずなのです。



目的意識を持った進路選択

就職活動をする大学生や高校生が悩むことの多くに「自分に合った仕事が見つからない」「自分にはどんな仕事ができるのか」といった適性に関することがあります。これは小学校から高校まで自分の将来について考える機会が少ないまま高校・大学まで過ごしてしまい、最終選択の「就職」の時点でビジョンが見えなくなることが原因ではないかと考えられます。学校の成績も重要ですが「何のために高校に行くのか」「高校を卒業したらどうするのか」という将来のビジョンについて早い時期から考えさせることも大切です。

現在のあなた、これからの未来は?



高等学校について知ろう

情報収集

「自分に合った学校選び」と言っても何をどうしたら良いのか、分からない生徒も多いと思います。そのためには、進路選択のために必要な情報を生徒に与え、「進学」についての意識を高めるように話す事が大切です。中学3年生になると、ある程度、成績のポジショニングも固定し、テストで大幅に順位を上げる事は難しくなります。その中で皆1人でも抜かそうと受験勉強に励んでいくことになるので、進路について考える時間も、心の余裕もなくなってしまうのが現状です。

それであれば、中学2年生までの時期に、どんな高校でどんな勉強や部活をしていきたいのか、高校卒業後の進路はどんな道を考えているのか、ご家庭や先生と話し合うことが大切だと思います。もし、十分に進路について話し合った上で偏差値の高い高校に目的を見出したのであれば、本人も納得した上での早めの準備も可能となります。人生において、今後の振幅の大きな中学時代、将来について考える時間を是非大切にしてほしいのです。

オープンスクール

夏頃～秋にかけて、多くの高校がオープンスクールを開催しています。学校の説明や校舎見学は勿論のこと、授業体験、部活体験、制服試着など高校生活の様々が体験できます。

保護者の方もご参加頂けますので、保護者ならではの目線で、高等学校を確認する絶好の機会となります。

どの高校もそれぞれ特徴があります。しかし学校案内(パンフレット)などでは分からない部分も多く、自分に合っているかどうかを判断するには実際に見に行くことが重要となります。また、1校見学するだけでなく複数の高校を見比べる事で、判断する材料も増え、よりよい学校選択ができるようになります。

しかし、1日に見学できるのは、1校です。複数のオープンスクールに参加するためには、複数の日程をとり分けなければいけません。そのため、早い時期から、部活等に支障がでないようにするなど、オープンスクールを意識して学校生活の計画を立てるようにすると良いでしょう。

オープンスクールの一日(例)

8:30	受付
9:00	体育館にて学校説明会
9:30	教室へ移動
9:40	授業・部活体験① 個別相談など、自由に回れる学校もあります。
10:50	授業・部活体験②
12:00	終了



中学就職について

全国の中学生の約97%が高等学校に進学していますが、中学を卒業してそのまま就職する人も中にはいます。現状では中卒者への求人数・求職者数ともに減少傾向にあり、その中であって東海地区は比較的求人倍率が高い地域になっています。

中学卒の就職で一番の問題は離職率です。中学卒業者の1年目の離職率は40%台を下回ることがありません。また、3年以内の離職率を調べると、中学校卒業者は実に約65%、3人に2人が辞めてしまっているのです。とても残念なことですが、十分な職業意識を持たず、社会の荒波にもまれる準備も出来ないまま就職しているのですから仕方のない面もあると思います。

「高等専修学校」と「サポート校」

全日制や定時制のいわゆる「高校」に進学しない子どもの中には、「高等専修学校」「サポート校」と呼ばれる学校に進学する人もいます。中には専門的な知識・技術をいち早く身につけたいという前向きな考えで進む人もいますが、多くは中学時代に不登校になってしまふなどの諸事情により「高校」に進学できなかった人や高校を中退してしまった人達が進学しています。

中学・高校での環境になじめず、本来持っている才能を發揮できなかった人達が、それぞれ自分に合った道を見つけるために新たな一歩を踏み出そうと頑張っています。

いわゆる「高校」に進学できなかった、中退してしまったからといって、その人が他の人よりも劣っているわけではありません。環境になじめず、本来持っている才能を發揮できていないだけです。実際、これらの学校に進学したことで、新しい道を見つけた子どもたちが多く存在します。中学校に馴染めないで悩んでいる子供には、このような道もあることをぜひ知って頂きたいと思ひます。

個性を生かす進路

中学生にとって「将来の進路選択」といっても遠い先のように感じるのではないのでしょうか。実際にほとんどの人が普通に高校に進学していますし、高校生になってから大学・専門学校・就職など大きな岐路に立つというイメージを持つ人が多いと思ひます。

しかし、中学卒業後の進路選択によってその先の道が大きく変わることがあるのも事実です。選択した高校が自分に合わなかった場合はつらい高校生活になってしまいますし、中には中退という厳しい選択をしなければならないこともあります。逆に、自分にピッタリ合った学校を見つけることができれば中学時代以上に自分の能力を發揮しグングン成長していくことも可能となるでしょう。

本誌では、さまざまな公立高校・私立高校・高等専修学校・サポート校など様々な進路をご紹介します。「自分の成績ならこんなところかな?」といった安易な選択ではなく、多くの情報を集めて、オープンスクールにもどんどん参加し、自分にとって一番良い進路選択は何なのかを考えてより良い進路選択をしてほしいと思ひます。未来を担う子どもたちの進路に、保護者の方や先生方がこの本をお読み頂き、少しでも進路指導にお役立て頂けたら幸いです。